安井鍼灸整骨院 NEWS VOL.１３３　注射後のしびれ（１０月）

注射針による神経損傷

採血、点滴ルートの確保、静脈注射など「血管に注射針を刺す」という行為は最も基本的で日常的に行われている医療行為の一つである。これらを行ったときに生じる痛みの原因には、穿刺後の出血や血腫形成、穿刺部の感染等のほかに、神経損傷として(1)神経因性疼痛と(2)複合性局所疼痛症候群（complex regional pain syndrome：CRPS）がある。これらは医事紛争の対象になりやすく、十分な知識と注意が必要である。

1.神経因性疼痛

侵害刺激が消失しているにもかかわらず、持続的に疼痛が続く状態。針を刺した瞬間に「しびれた」「電気が走るように痛い」「響いた」などと訴える場合が多い。刺した部位の痛みが針を抜いた後も残存し、また末梢（肘での穿刺なら前腕全体）にも痛みやしびれ感がある。熱感、発赤、腫脹などはみられない。針による神経炎、神経腫などが指摘されている。治療としてはペインクリニックや整形外科で疼痛コントロールや理学療法、手術療法を行う。

2.CRPS

従来、反射性交感神経性ジストロフィー（reflex sympathetic dystrophy：RSD）等と呼ばれていた疾患で、先に述べた神経因性疼痛の症状、所見のほかに、浮腫、発汗障害、血流障害、皮膚温の異常などの自律神経症状が加わるのが特徴である。明らかな神経損傷が認められないものを type1、認められるものを type2 と分類する。急性期には、発赤・腫脹などのため蜂窩織炎に似ることが多い。臨床所見や症状に比べて白血球数や CRP などの炎症反応が不釣り合いに乏しい場合、抗菌薬による治療に反応しない場合、少し触れるだけで痛い（アロディニア）などの感覚異常を伴う場合などは CRPS も疑うべきである。自然軽快する場合もあるが、進行すれば皮膚・骨軟部組織の萎縮や関節拘縮、筋力低下をきたし、廃用肢となる例もある。ペインクリニックへのコンサルトによる早期の診断と治療が非常に重要である。

注射による末梢神経損傷の対処法は？

採血や献血などで注射針を刺したとき、ごくまれに末梢神経を損傷することがあります。2018 年度の献血者の健康被害発生状況によれば、その確率はきわめて低いのですが、皮膚層近くの神経は個人差が大きいため、神経損傷を 100%防止することはできません。神経を損傷すると、手や指に電気が走るような痛みやしびれ、重苦しい感じなどの症状が表れます。ただし、太い神経を断裂するなどといった可能性は低く、多くは軽度の損傷です。痛みやしびれの症状も軽く、ほとんどの場合は２～４週間程度で症状は治まっていきます。なお、症状には個人差があり、なかには回復に２カ月程度かかることもあります。手当てや対処法は、採血直後は、まず手を握ったり開いたりできるのかを確認します。手が動くことを確認したら、局所の保温と安静を保つようにして、経過観察します。１週間くらい様子をみて、痛みやしびれ、腫れ、圧迫感などが改善されない場合は、再度診察を受けるようにしましょう。その際、整形外科などへの診療が必要か（急性期であればペインクリニックなども）を判断してもらいましょう。

安井鍼灸整骨院　０７８－９９５－９４６１　新患の方は、来院前に予約のお電話の御協力をお願いします。
9：00～12：00　16：00～21：00(月～金)　８：３０～13：00　16：00～20：00(土)
駐車場正面に２台　キッズスペースあり　夜２０：３０まで受付　詳しくは HP をご覧ください。
兵庫県明石市大久保町大窪１９２１番地の１クレージュ山手１０１号(カラオケまねきねこ横)